

# カナダ流パーティの楽しみかた

波多野 純

## 駅舎完成

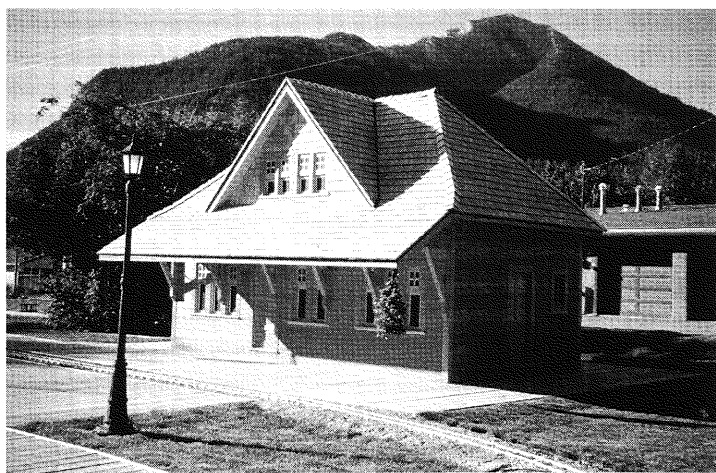
カナダの公園にミニS Lの駅舎を建設したことを、九月号で報告した。このコメモラティブ・プラザと名付けられた公園が、七月一日のカナダ・デイ（建国記念日）に開園式を迎えた。今回は、カナダ流パーティの楽しみかたを通じて感じた、ひとりひとりを大切にする社会のありかたについての報告。

私たちの大学は、カナダ・アルバータ州のクロウズネストパスという六五〇〇人の小さな町に、歴史的な裁判所を改修した研修所をもっている。この町は、コールマン、ベルビュー、ヒルクレストなどいくつか

の小さな集落が連合してできた町で、中心街はブレアモアという。中心街と言ってもわずか二〇〇〇人ばかりの集落。この研修所の裏の公園に、ミニSLのレールを敷き、一〇二年前、西部開拓史時代のブレアモア駅をモデルに二分の一に縮小した駅舎を、昨年の秋に大学院生たちと建設した。一週間の滞在だったので完全な竣工には至らなかったが、冬を過ぎ春になってから、地元の大工ゲリー・カーペンターさんが完成させてくれた。

芝生のなかを楕円形にレールが走り、赤く塗られた駅舎の前には木製のプラットホームが設けられた。ピクニックベンチ、給水塔を模した滑り台、さまざまな案内板も設置された。

この公園は、子どもたちの遊び場としてばかりでなく、周囲の人々や研修所の学生たちが緑の下で昼食をとる場所としても活用されるであろう。



▲完成した駅舎 2分の1に縮小してあるが、子どもたちにとっては親しみのもてる大きさ

## 前夜祭

### ―気楽なパーティーの企画術―

さて、竣工（開園）式は六月三〇日の前夜祭から始まった。町のクラブハウスを貸し切り、一八時三〇分～一九時三〇分カクテルパーティー、一九時三〇分からディナーと案内が出された。このシステムがなかなかよい。カクテルパーティーの時間のなかでいつ到着しても構わない。三々五々集まり、到着した人から順に気楽に会話をする。立ち話よし、テーブルに着いてよし、飲み物も思い思い。裁判所修復以来の友人で地元建設業者のケン・ソレンセン氏に、「最初に会ったときは映画スター、昨年は太ってコメディアン、今年は少し痩せて往年の映画スターかな」などとばかなことを言って、ふざけていた。

百数十人の招待客が集まり、皆が席に着く頃、ちょ

うど一九時三〇分となり、ステーキのディナーが始まった。それが一段落すると式典開始。と言っても、まだ食べている人もいれば、デザートを取りに出かける人もいる、気楽な雰囲気。

### 君のおかげだ

研修所長のフィルが立ち、ひとりひとりの名前を呼び、「彼はボブキャットを運転して公園を平らにしてくれた。それはとても難しい仕事で、彼のおかげで安心してレールが敷けるようになった」などと説明する。そして日本から駆けつけた大学の理事長夫妻の手で記念品が渡された。記念品は、蒸気機関車をモチーフにした公園のロゴマーク入り特注腕時計。数人の学生アルバイトのリーダーを務めたカルガリ大学の女子学生トゥリッサは特別に元気がよい。卒業したら、アウトドア教育のインストラクターになりたいと言って

いる。大工さん、植木屋さん、電気屋さん、現場で実際に働いた人を優先させ、町の有力者など偉い人は後回し。記念品を受け取り、嬉しそうに手を振る人。マイクを受け取りスピーチをする人。全員が記念品を受け取り、スピーチになろうとしたとき、フィルとシェリルの夫妻が記念品を受け取っていないのに気付き、大声で声を掛け、理事長から最後にプレゼントをしてもらった。式典の最中に大きな声を出したら、日本人らひんしゆくを買う。でも、この国なら全然不思議じゃない、おかしくない。

よく集まったなあ！

翌七月一日はカナダの建国記念日。地元新聞に全面広告を出した通り、朝一〇時から公園で、パンケーキパーティーが開かれた。ライオンズクラブが資金集めを兼ねて安い予算で面倒をみてくれる。メープルシロツ



▲プラットホームを舞台にしての、地元中学生のコミカルな音楽ショー

プがかかったパンケーキ四枚とウインナーソーセージ三本、それにコーヒード一人前。同時に参加者へ記念品が配られた。ロゴマーク入りSL機関士のキャップ。三〇〇用意したキャップは三〇分ほどですべて配り終えてしまった。その後も希望者があとを絶たないので、名前を書いてもらい追加注文した品を配ることにした。

キャップを配った人が追加希望者を含めて八〇〇人。行列をつくって、パンケーキを食べた人が五〇〇人強。おそらく全参加者は一〇〇〇人ほどだろう。ブレアモアは二〇〇〇人ほどのコミュニティだから、その半分が集まったことになる。式典の様子は、消防自動車の高い梯子の上に乗った地元新聞の記者が取材してくれた。二頭立ての馬車も、子どもたちを乗せて周囲を巡り、開園式を盛り上げてくれた。



▲町長と理事長夫妻から表彰額を受け取るギバス氏 彼は長年この公園を管理してきた

## 手作りの楽しさ

パンケーキが行き渡ったところで、地元中学生二人のコミカルな音楽ショーがあり、続いて表彰式となった。今日のプレゼンターは、理事長夫妻と町長。町の公園として整備したので、町長がプレゼンターを務めてくれた。記念品は、表彰状とSLのプラモデルをひとつの額に納めた、フィルたちの手作り。ロゴマーク入りの時計といい、今日の額といい、フィルはいろいろと工夫をしてくれる。町の名所をちりばめたカーペット、研修所の形が刻まれた記念コインはこの町の商店でなら本当に使える。こんなグッズもずいぶん種類が増えた。

つぎに、金色に塗装したメモリアル・スパイク（レールを留める大釘）の打ち込み。一通りの儀式が、実に楽しく和やかに終了し、ミニDLE残念なが



▲ 記念の額を受け取り記念撮影する町の人たち、中央が大工のカーペンターさん

らSLはボイラーの許可が下りず走らせることができなかった―の出發式。子どもたちを乗せた列車が汽笛を鳴らしてスタートした。

### ひとりひとりを大切に

カナダでのパーティや式典に参加すると、うらやましくまた感心することがいくつかある。まず、日本の式典は、壇上の人の話を拝聴する緊張した形式か、無駄話が多くまとまりのないだらけた形式の両極端。この点カナダの式典は、参加者が思い思いに楽しみなながら、大きな盛り上がりになる。企画力、演出力どれをとっても大きな開きがある。その差はどこからくるのか。パーティや式典の目的を、お互いの努力や協力に感謝しともに楽しむと考えるか、誰か偉い人のために形を整えようとするかの違いだろう。

また、スピーチがみんなうまい。「本日はお日柄も

よく……〇〇先生、△△議長をはじめ関係各省庁のお歴々のご列席を賜り……」なんて形式的なことを言う人はひとりもない。みんな自分の言葉でスピーチができる。カナダでは、きちんとした意見が表明できるようにすることが学校教育の大きな目標と聞かすが、それにしてもすごい。

日本では母親が先生に「うちの子はみなさんと違ったことをしていないでしょうか？」と心配そうに尋ねると聞く。横並びをよしとする社会観。「出る釘は打たれる」それなら打たれないように首をすばめて生きてゆく。上の人の意見に従っておけば、トラブルも起きないし、責任もとらなくて済む。無事に勤め上げれば、退職金や年金がもらえる。こんな自己責任に帰さない生きかたをしていて、今後も安泰という保証はない。少なくとも創造的な生きかたや仕事はできない。

従順で扱いやすい子ばかりを評価したら、子どもの

可能性の芽を先生がつみ取ってしまうことになる。その点、カナダの社会はひとりひとりの個性や仕事を評価し、大切にする目をみんながもっている。

◀子どもたちを乗せてミニDLの出発



当然の自己主張をした千葉すず選手に対して、「立派な社会人に」と見当はずれなコメントを発する、

「偉い人は偉い」と信じて疑わない、従属的協調を強

要するおっさんは、早く引退した方が

よからう。そういえば彼女もカナダ在

住だった。

(日本工業大学)